cafe talk_02

ゲスト　森善之さん　写真家
増永明子さん　デザイナー

02号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。午前中から夕方まで、長時間にわたる撮影の感想についてお聞きしました。

峯　今日は江之子島界隈の撮影から始まり、enocoでの対談まで、本当に長丁場ありがとうございました。

増永　ものすごく歩きました…（笑）。

峯　お疲れさまでした…！森さんも今朝と比べてかなり日焼けされてます…。

森　でもやっぱり歩くといろいろ見えてきますよね。いつもは車で目的地まで移動して、ピンポイントで降りて撮影してますけど、歩きながら撮影すると車とは違うスピード感になるから。

増永　森さんは撮影でいろんな地方を見ていらっしゃるので、町の見かたや目線というか、ファインダーを通しての切り取り方がすごく勉強になりました。

森　町並みもなんというかすごく面白かったですね。

増永　このあたりはもともと古い工場の町なんですが、古い通りを抜けると高層マンションが建っていたり、ショッピングモールの看板がどーんとあったりして、いつも見て分かっていたつもりではあったんですけど、新旧の対比に驚かされました。

森　ギャップが面白かったね。今の若い世代の人たちの暮らしぶりと、元々のこの界隈の匂いみたいなものが一緒にあるところがいいなぁ、と。

森善之（もりよしゆき）
写真家。旅して撮る写真家として知られ、2009年「暮しの中にある47の日本」をテーマとするグラフ誌JAPANGRAPHを創刊。www.nanakumo.net

増永明子（ますながあきこ）
グラフィックデザイナー。ブランディングを軸に、ジャンルを問わず幅広いフィールドで活躍。マスナガデザイン部主宰。www.masdb.jp

ninOval cafe

enoco地下1階　営業時間：11:00−18:30（月曜日定休）

幸せのパンケーキが大人気！！

パンケーキ専門店としてスタートして2か月がたちました。皆さんのおかげで、評判も少しづづ広がってきました。「おいしい！」というお客様の笑顔に、スタッフも幸せになっています。これからも、ninOval cafe は、おいしいパンケーキを作り続けます。

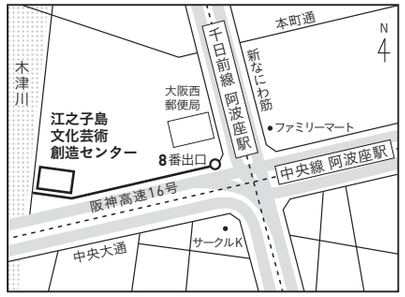
enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006　大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間：10:00〜21:00（ただし展示室は11:00〜19:00・日曜日は11:00〜16:00）
月曜・年末年始休館
電話：06-6441-8050｜FAX：06-6441-8151
メール：art@enokojima-art.jp
www.enokojima-art.jp

［アクセス］
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。



enocoニュースレター 02
2014年7月発行

｜発行｜ 大阪府立江之子島文化芸術創造センター
｜編集｜ 峯恵子（enoco アートコーディネーター）
｜アートディレクション｜増永明子（マスナガデザイン部）
｜デザイン｜浜田茜（000 Projects）
｜撮影｜森善之（表紙、p.3）
｜イラスト（エノケン、似顔絵）｜ タダユキヒロ

「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

enoco 02

写真とデザイン／森 善之（写真）・増永明子（デザイン）

江之子島文化芸術創造センターenocoがお送りする「ニュースレター」。
表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当。
今号では、enocoのフィールド・大阪市西区の新旧入り混じる街並みにデザイナーの仕事が溶け込む日常を切り取っていただきました。

www.enokojima-art.jp

江之子島文化芸術創造センター｜enocoニュースレター｜2014｜02

南海トラフ巨大地震が起こった際の津波で浸水する高さを表す標識「浸水どうぶつものさし」。
浸水の高さをどうぶつに例えて表示しています。

クリエイターと行政が協働する、これからのまちづくり

まち を デザイン する

グラフィックデザイナー 増永明子 × 大阪市西区長 高野賢 対談
聞き手： 髙岡伸一、峯恵子（enoco）

enocoでは、まちづくりや地域の活性化など
ひとつの組織だけでは解決が難しいさまざまな社会の課題に対して
アートやデザインの力で解決策を検討し、提案することのできる
プラットフォームづくりに取り組んでいます。
2013年、さまざまなクリエイターと行政の協働による課題解決を目指した
大阪市西区の「文化・芸術創造型ラウンドテーブル※」の
マネージメントをenocoが担当。そこから誕生した標識「浸水 どうぶつものさし」や
デザインとまちづくりのこれからについて
プロジェクトに関わったデザイナーと西区長の対談というかたちでご紹介します。

※ラウンドテーブルとは、数人でテーブルを囲み、出席者が対等な立場で自由に意見交換をする場のこと

まちの新しい標識「どうぶつものさし」

髙岡　まずは区長、できあがった標識の感想はいかがですか?

区長　それはもう、すごく嬉しかったですね！ 案をもらって真っ先に妻に見せて、「これ、ええやろ」と（笑）。他の区長にもよく自慢しています。現在は小中学校を中心に掲示していますが、区役所でも正面玄関の一番目立つところに貼りました。

髙岡　増永さん、プロジェクトに関わったきっかけや、デザインのコンセプトについて教えてください。

増永　西区の「文化・芸術創造型ラウンドテーブル」への参加がきっかけです。海抜の低い西区が抱える防災の課題を、通例の訓練とは違うかたちで体感できる機会づくりとして、小学生との防災ワークショップを開催して、その時の子どもたちの気づきを参考に、津波が起こったときの浸水深を示す標識の制作にとりかかりました。

髙岡　小学生をターゲットにしているのは、移動の多い大人とは違い小学生は基本的に一日中西区にいるはずだから、いざ何か起こったときに実は一番頼りになるんじゃないかという話が出たんですよね。

増永　そうですね。それで子どもたちと関わるなかで、恐いことを恐いと知らせるのではなく、楽しみながら情報が得られるものがいいなと思い浸水深の高さを馴染みのあるどうぶつの高さとリンクさせることにしました。また絵と数字による情報は、外国の方など日本語がわからない方でも理解しやすいのでは、というグローバルな目線もあったり、いろんな視点を交差させて「どうぶつものさし」ができあがっています。

区長　これはラウンドテーブルで皆さんにお願いしたからこそ出てきたものだと思うんですよね。表層的に見た目のいいものをつくることで終わらず、一人でも多くの人、老若男女に気づいてもらうという標識の本質を掘り下げ、目的達成のイメージを共有しながら進められたというのは西区ならではの取り組みだと僕はとっても満足しています。

「デザイン」ってなに?

区長　このところ「どうぶつものさし」について新聞やテレビの取材を受けるようになってきていて嬉しい限りではあるんですが、本質的な目的やプロセスを省いた報道のされ方には少し疑問を感じています。区がデザイナーのみなさんに、「これをつくってください」と発注してデザインが上がってきたというニュアンスで表現されてしまうことが多いんです。

増永　いろいろな意味で、まだまだ社会の中でデザイナーの役割が正しく理解されていないというのはあるかもしれないですね。

区長　僕は最近「デザインって何なんやろ?」ってよく考えるんですが増永さんはデザインって何だと思われますか?

増永　大きくいうと、見えない「こと」や「もの」を可視化することでデザイナーの仕事の多くは、コミュニケーションを形にすることです。それは課題を解決するためのしくみや、印刷物やWEBだったりします。今回であればワークショップで「こと」を、標識で「もの」をデザインしたということになりますが、まだまだ表層的な「もの」をつくることをデザインと捉える方が多いので、記者の方たちも混乱されているなというのは私も取材を受けるときに感じることがあります(笑)。

区長　解決すべき課題そのものが何なのかをクライアント自身がきちんと自覚するというのも実は難しいことですよね。これまで課題に対して100%の答えを持つことが求められ、すべて役所の中で解決するというのが基本的な行政のスタンスだったので、課題の扱い方がヘタというか、今まで外の誰かとキャッチボールをしながら何かをつくっていくという経験が薄いなと感じます。今回のように皆さんと課題を共有しながら解決策を探る過程はとても新鮮で、いろいろな視点から問題提議をし解決に至るまでを掘り下げるという取り組みには可能性を感じます。だから今回は職員にとっても良い機会になりましたし、これからもっとそうなっていけばと思っています。

増永　以前ラウンドテーブルで話していたのは、区役所の中にデザインの窓口をつくり、いろんな問題解決の機会を作れたら面白いねと。

区長　「西区デザイン窓口課」… みたいな感じですか?

増永　そうですね。例えば窓口にデザイナーが日替わりで勤務して区民や職員から相談を受けつけるというような…。クリエイターが社会の課題解決への関わりのきっかけなったり、職員の方とコミュニケーションを深める機会になるのでは、と思うんです。将来的には、それこそ恐らく日本初であろう「デザイン課」が区役所の中に設置されたらいいな、と夢は広がります(笑)。

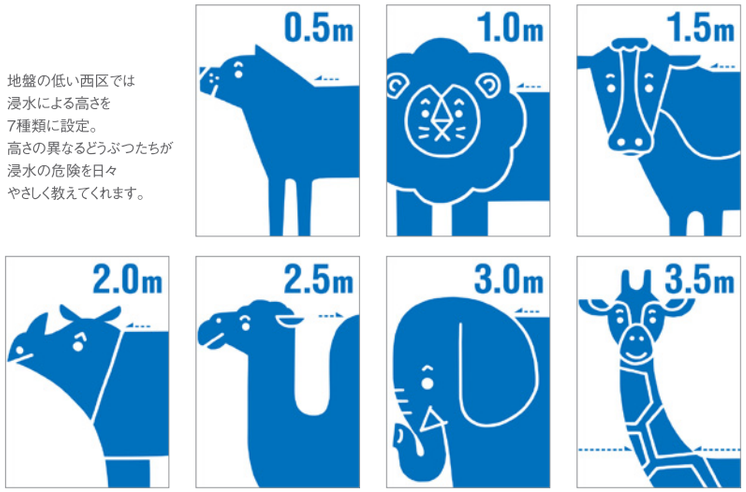
区長　なるほど〜! ひとまずは、法律の相談窓口のデザイン版でしょうか。面白いかもしれないですね。

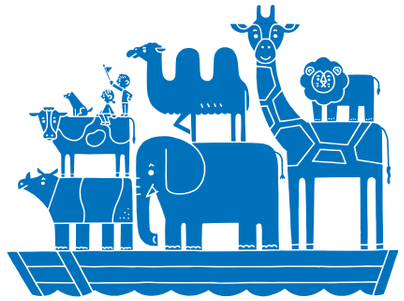
行政とクリエイターが協働するまちづくり

区長　私個人として嬉しく感じるのは「クリエイターと行政とのあんな関わり方、連携のしかたがあるんだね」と他の地域の方から言ってもらうことですね。私自身、公募で選ばれた区長として就任していますので、今までの行政の視点とは違う、民間の視点を持っているつもりです。デザインに携わる方々はじめ、いろんな視点を行政に取り込むことは僕の存在意義というか、負うべき役割のひとつでもあるので、ぜひともこういう試みは定着させてきたいです。そして例えば僕が任期を終えていなくなっても、西区にはそういう機会が日常的にあるという、そういう流れができるといいなと思っています。

増永　いま大学の非常勤講師をしていますが、デザイナーを目指して勉強している全ての学生がデザイナーになるとは限りません。

地盤の低い西区では
浸水による高さを
7種類に設定。
高さの異なるどうぶつたちが
浸水の危険を日々
やさしく教えてくれます。





人間を安全に導いてくれるノアの方舟をイメージ

西区の真ん中を南北に流れる木津川と水辺の街並み

継続するということ

増永　こういう取り組みで大切なのは、やっぱり継続するということだと思います。民間のブランディングでも、たいてい3年が目安。3年経ってようやくお客さんをはじめ、その企業の社員にもメッセージが浸透します。実はブランディングで一番時間がかかるのは内部の意識改革で、変わることに保守的な姿勢の行政にとっても、じっくり職員の意識を変えることが大事なポイントになりそうです。単年で一つの事業が終わってしまうという行政の体制については、最も危惧しています。

区長　確かにそうですね。行政にとっては単年度予算というのがどうしても大きい壁ではあるんですけども、長期的なスパンで検討していく必要はあると思います。今回の取組みに関しては継続が決定し、掲示する場所も一気に増えるので、これからたくさんのどうぶつ達と出会う機会が増えます。

髙岡　西区が掲げている「クリエイティブなまちづくり」についていえば個別に活動しているクリエイターの数で勝負するのではなくて、西区では行政とクリエイターが協力して何かに取り組むことのできるプラットフォームがあることのほうが遥かに大事ですよね。またクリエイターの立場から見ても、こういう機会を得られるというのは貴重だと思います。

増永　私も今後、なるべく多くのクリエイターや、若いデザイナーが参加できる機会をつくっていきたいと考えているところです。

区長　ラウンドデーテーブルの開始当初は、行政とクリエイターという今まであまり交流を持ったことのない業種同士が、どういう話をすればいいかさえ分からなかったでしょうし、どんな課題を持ってきたらいいかということも分からなかったと思うんですよね。でも区のさまざまな部署の人とクリエイターの方々がお話しする機会が増えるにつれて「あ、こういう投げ方もあるな」「あ、そういう視点もあるんやな」と、どんどん引き出しが増えていくはずです。

でも、デザインによる課題解決の方法を身につけていたり、「こと」をつくるのが得意な人が、様々な分野で活躍できる可能性はあると考えています。行政に限らずいろんな企業や団体で、コミュニケーションを形にする力を持つ人材が活躍することが、世の中をより豊かにしていくんじゃないかと思っています。

区長　行政の仕事も結局ベクトルとしては同じだと思います。社会の課題を解決するために仕事をしているので、目的は同じで手法や立場が違うだけなんですよね。

増永　私たちデザイナーの仕事の範囲は、どんどん社会全体との関わりに広がりを見せてきています。自分が住んでいる町への関わりだからこそ興味や、やりがいがありますが、大阪市・大阪府の規模になってくると話が大きすぎてなかなか進みません。だからこそ西区のスケール感が大事で、すぐに実行に移せることに大きな意義を感じます。まさに今日みたいに、行政のトップとデザイナーが直接お話しすることだってなかなかできないことですから。貴重な経験をさせていただきました。

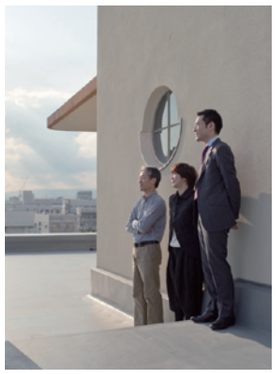
区長　こちらこそ! これからもどうぞよろしくお願いします。

— PROFILE

— **高野 賢** (右)
埼玉県出身、大阪市西区在住／外資系海運会社に勤務したのち平成24年8月、弱冠36歳で公募区長として西区長就任
http://www.city.osaka.lg.jp/nishi/

— **増永明子** (中)
大阪市西区在住／グラフィックデザイナー／ブランディングを軸にジャンルを問わず幅広いフィールドで活動中／国内外のコンペティションにて多数入選・受賞
http://www.masdb.jp

— **髙岡伸一** (左)
enoco プランニングディレクター



7-9月のイベント情報

地域の課題をクリエイティブに解決！enocoのそうだん

[eno so done！(エノソーダン！)]

近年、日本の各地でアートやデザインなどを活用した地域活性化が取り組まれて注目を集めています。そんな創造性によるまちづくりや魅力発信、公共空間活用の促進や防災教育など、行政課題や社会問題をクリエイティブに解決するためのヒントを、現場の最前線で活躍する経験豊富なプロがマンツーマンでじっくりとアドバイス。日頃のやりかたに疑問を感じていたり、新規事業の計画を検討されている行政関係者の方々や地域の皆さまなど、この機会を活用してぜひ次のステップへとつなげてください。
相談は予約制となり、現在は8月までの日程について募集をおこなっています。
ー
開催期間：2014年6月〜2015年3月（月2回開催、全20回予定）
会場：enoco4階ライブラリー
対象：大阪府内の市区町村、地域団体、NPOなどの職員・スタッフ
主催：大阪府・enoco
アドバイザー（順不同・敬称略）：甲賀雅章（enoco館長/大道芸ワールドカップIN静岡プロデューサー）、大南信也（NPO法人グリーンバレー理事長）、忽那裕樹（enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表）、塩山諒（NPO法人スマイルスタイル代表）、渡辺豊博（NPO法人グラウンドワーク三島専務理事・事務局長）

タチョナ×enoco　子どもアートアークショップ

？を自動販売機で売ろう！

どんな街でも目にする自動販売機（自販機）。自販機で自分がつくったものを売ることができたら…？2回にわたるワークショップに参加した子どもたちが、講師から自販機の仕組みやお金の価値、アイデアの発想法について学びながら、自分たちが売りたいと思うものについて考えました。参加者それぞれが制作した個性あふれる作品に、自分で値段をつけて自販機にセット。ボタンを押せば、あらかじめ録音された商品説明が流れ、気に入った作品を購入して持ち帰ることができます。
一般的によくある、作品が完成してめでたしめでたし、というものではなく、作品を売るという経験を通して、お金や物の流れについて学ぶことのできるワークショップでもあります。売り切れの場合は補充ができ、売れゆきが思わしくなければ改良や入れ替えも可能！と本格的。また販売されている作品にはハガキが同封されていて、制作者である子どもたちに感想を書いて送ることができます。
はたしてどんな作品が売られているのか？ぜひenocoにてチェックしてみてください！（ただし売り切れの場合あり。）
ー
商品の販売期間：8月17日（日）までのenoco 開館日
自販機設置場所：1Fエントランス
特設サイト：www.enokojima-art.jp/event/20140511_vending/

第2回大阪インターカレッジ・パブリックスタイル・ワークショップ

建築都市系6大学　合同設計演習展

昨年からはじまったインターカレッジ・パブリックスタイル・ワークショップは、関西圏の6つの大学で建築や都市を学ぶ学生達が、学内の授業で与えられる各々の課題を持ち寄って、連携して社会に提案をしようという試みです。架空の条件設定で進められることの多い演習課題に社会性を持たせ、対象エリアについてリサーチを行い、現実の課題に取り組む専門家からレクチャーを受け、行政や他大学の教員から批評を受けつつ、ひとつの作品へとまとめていきます。敷地の決まった単体の建築を設計するのではなく、課題のある地域を自ら選び出し、エリアデザインの概念で取り組む点もユニーク。
今年は作品の展覧会開催とゲスト・クリティークによる講評に加え、優秀作品には、10月24日に開催される大規模なシンポジウムの壇上でプレゼンテーションする機会が与えられます。
ー
｜展覧会｜
開催期間：9月10日（水）〜14日（日）※9月10日（水）には、展覧会場にて講評会を行います。
会場：enoco
｜シンポジウム｜
開催日時：10月24日（金）17:00〜
会場：朝日生命ホール（大阪市中央区高麗橋4-2-16）

シアター・コミュニケーション・ラボ 大阪

ベーシック・クラス第2期生 募集

「リアルだ！」「存在感がある！」アメリカ映画の俳優をみて、演技力に感心したことはありませんか？主役はもちろん、脇役やエキストラたちも演技にスキがありませんよね。
アメリカの俳優の多くは、アクターズ・スタジオの演技法〈メソード〉を学んでいます。〈メソード〉のもとになっている、ロシアのスタニスラフスキー・システムという俳優教育システムに基づいたカリキュラムをもつ、演劇スクールの2期生を募集します。
授業では、演技の基礎としての心身操法・ボイストレーニング、テキストを使ったエチュードなどの必修授業と、バレエや体調管理の術を学ぶヘルスケアなどたくさんの選択授業をご用意しています。集中講座も充実。教養としての演劇史の講座や、海外から現役の俳優を招いてのワークショップなども開催予定です。
ー
期間：2014年10月〜2015年7月
会場：enocoほか
応募締切：2014年9月19日（金）必着
学費：入学金10,000円、授業料 [一般]120,000円
[学生]60,000円（税込）

オープンキャンパス開催 <参加無料>
日時：2014年8月31日（日）、9月3日（水）、6日（土）

エキシビションカレンダー

くわしくはホームページをご覧ください
http://www.enokojima-art.jp/

7月

6月21日（土）ー7月5日（土）	FLAG ART EXCHANGE あなたがほしい i want you [ルーム4]
8日（火）ー13日（日）	天洋画会展 [ルーム1]
8日（火）ー13日（日）	今村友哉　個展 [ルーム1]
22日（火）ー27日（日）	第43回大阪二紀展 [ルーム1,2,3]
29日（火）ー8月3日（日）	全労済「第30回子ども絵画コンクール」[ルーム1]

8月

16日（土）ー17（日）	第2回オトナ工芸魂展 [ルーム1]
19日（火）ー30日（土）	市民キュレーター展覧会 [ルーム1]

9月

2日（火）ー7日（日）	JNP大阪第1・2・3・4支部第4回合同写真展 [ルーム1]
9日（火）ー14日（日）	6大学合同設計演習展 [ルーム1,2,3]
9日（火）ー14日（日）	写真展「水の記憶 ハンブルク・大阪」[ルーム4]
16日（火）ー21日（日）	吉田脩二・井上和雄　個展 [ルーム1]
26日（金）ー10月12日（日）	enoco企画・所蔵品展 [ルーム4]
26日（金）ー10月4日（土）	dracom祭典2014『gallery』公演 [ルーム1]

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

これまでのイベント

enocoの学校・第1期　Be creative Course 2013
大阪活性化計画　公開プレゼンテーション
(2014年3月21日)

「おもろいやん、大阪」と言わせたい。

2013年度よりスタートしたenocoの学校・第1期。約半年間にわたって「大阪を変える」というテーマのもと、まちづくりやソーシャル・デザイン、地域振興やコミュニティ活性化の専門家を全国からを迎えての講義・ワークショップのほか、それぞれのチームに分かれての自主ワークショップに取り組み、「最近元気がない」と(私は決してそうは思いませんが…)巷で言われがちな大阪を自分たちの力で盛り上げるべく、企画の立案に取り組んできました。

この日は、受講生が3つのチームに分かれ、半年間練り上げた企画のプレゼンテーションを行いました。役者や学生、行政マンまで多様なバックグラウンドをもつ受講生たちが注目したキーワードやテーマは、上方芸能や笑い、教育の問題から水辺の環境の使い方まで、本当にさまざま。

各チームの熱意あふれるプレゼンに引っ張られるように、文化行政や都市計画の分野で活躍するゲストクリティークの皆さんや、会場に入りきれないほど集まっていただいた観覧者の方々からも活発な質問や意見が飛び交い、まさにそこにいた全ての人が「大阪活性化」について真剣に考え、意見を交換する場が生まれていたように思います。心から大阪のことを想う人がこんなにもたくさんいる。それこそが大阪の本当の財産なのだなということを実感しました。

終了後、enoco開館2周年を祝うパーティーの中で修了式が行われ、修了証書を受け取った受講生の皆さん。すでに自主企画のイベントの企画が持ち上がっていて、本当に頼もしい限り。卒業生の皆さんのご活躍、楽しみにしております！

峯恵子 / enoco企画部門

enocoの学校・第2期は、2014年9月開講予定。募集要項やスケジュールは、追ってwebサイトにてお知らせいたします。

▮ 2013年度の講師陣(順不同・敬称略)
山名清隆(ソーシャルコンテンツプロデューサー)、小野裕之(greenz.jp 副編集長)、砂川肇(トレンド・スポッター)、並河進(コピーライター)、甲賀雅章(enocoの学校校長/デザインプロデューサー)、山浦晴男(情報工房代表)、菊池宏子(コミュニティ・デザイナー)

▮ 第1期レクチャータイトル一覧
8月「大阪のど真ん中で、愛を叫んでみないか！」(説明会&プレ公開セミナー)/9月「ほしい未来は、つくろう」「自分の思いだけでは、社会は変わらない。」/10月「その企画は、世の中に必要とされ、実現可能なのか」「広告の未来の話をしよう。COMMUNICATION SHIFT」/11月「写真分析法により、効果的に情報を分析共有する」/1月「場所と組織をデザインする」/2月「プレゼンテーション・テクニック」

タチョナ×enoco　子どもアートワークショップ
《なんだこれ？》サークル　発表会
(2014年4月6日)

2月から小学5・6年生女子7人で活動してきた《なんだこれ?》サークルの発表会は、これまでメンバー自身が考えてきたなんだこれ？を実演するライブと、その様子を撮影した映像の上映という二部構成で行われました。70人を超える観客(それも有料)の中、発表されたなんだこれ？は、「くりきんとんを体で表現する」「みんなで昨日あったことをいっせいに話す(でもだれも聞いてない！)」「誰かがおったおりがみをほかの人がていねいに広げてクシャクシャに丸めてすてる」など、どれもアートかおまけのなんだこれ？具合。っていうか君たち、ぜんぶわかってやってるよね！二部はちょっと映像に難ありでしたが、それでも数分前の自分たちを批評の対象として俯瞰する彼女たち、を俯瞰する観客(それも有料)という心温まる構図。終了後のアフタートークでも、全員きっちりキャラ立ちしちゃったりして、もうブチョー的にも大大大満足です。ありがとう、2ヶ月間ちょー楽しかった。またね！

岩淵拓郎 / 編集者・《なんだこれ？》サークル部長
BEARS→XEBEC→CAP HOUSE→マルセイユ→フェスゲ界隈→208→どこでも。一般批評学会会員。美術家は2010年に廃業(キリッ
www.mediapicnic.com

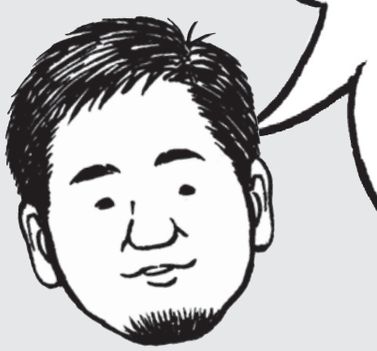
サロン文化大学「アニメ界隈ニュース」
(2014年4月11日)

友人とおしゃべりしているような気分になれるトークイベント「サロン文化大学」が開催されました。
コピーライターの狩野哲也さん主宰のこのイベントは、事務所やカフェギャラリーなど、様々なスペースを利用して不定期に行なわれています。各回のゲストとテーマは、いまの狩野さん的オモロい活動をしている人のお話を聞きたいというモチベーションでセッティングされているため、参加者はもちろん主催者がとても楽しそう。そのゆるやかな雰囲気につられて、ゲストだけでなく参加者も自然と話しだす良い場がつくられています。今回のテーマは「アニメ界隈ニュース」。アニメそのものよりも、アニメを取り巻く周辺の事象、たとえば「ファミリーマートで見る初音ミクって何？」など、日常生活でアニメをあまり意識しない人でも、いつの間にか遭遇している事象を読み解いていくというものでした。主催者の盛り上がりすぎるトーク熱を適度にならしながら、キーワードをまとめていく手腕に脱帽しつつ、深夜までトークは続きました。このイベントは、定期的にenocoで開催していく予定です。

吉原和音 / enoco企画部門

enocolumn 02　忽那 裕樹　enocoプラットフォーム部門チーフディレクター

enocoに関わる創造人たちによるリレーコラム。今回は地域とenocoをつなぐプラットフォーム部門の忽那さんです。



ピクニックが創造力を育む

「一緒にピクニックに行きませんか？」。身近な人に誘われてワクワクしながら、どんなピクニックにしようか、と考えます。近くの公園や河川敷に繰り出して、持ち寄った食事を交換しながら、思い思いのスタイルで会話を楽しみます。ここに、創造することの原点があるような気がしています。創造というのは、身体感覚をともなった記憶をたどることから始まります。おそとで食べたらとても美味しかったことや野原を走り回ったこと、風が運んできた花の香りなどなど。色んなことを思い出しながら、仲間と交換する食事を考えます。自分が食べたいものよりも、相手が笑顔になる美味しいものを持っていきたいと思案します。これは「他人を想う」という、創造力が最も高まる行為だと言われています。で、仲間と一緒にピクニックにでかけると、どこにシートを敷いて食事を並べるのか、広がる空と起伏のある原っぱと涼しげな木陰と心地の良い眺望なんかを頼りに、お気に入りの場所を見つけるのです。環境を読み取って使いこなすというのは、本来生きていくため大切なことで、これも、創造力が働く重要なポイントです。脳科学でも「自分の身体を使い、直観を働かせ、決断し、行動する時にこそ、人間はもっとも創造的になる事ができる」なんて言われています。身近な屋外環境を魅力的に使いこなすピクニックはまさにこれ。創造力の源の宝庫なのです。昔から続くこの行為は、暮らしの中で見つけてきた、自分らしく生活を楽しむ知恵なのかもしれません。諸説ありますが、本格的にピクニックが始まったのは、19世紀初めのイギリス・ロンドン。産業革命により飛躍的に生活が便利になったのと引き換えに、都市環境が劣化しました。そのため、貴族が所有していた狩猟の場が市民に開放され、多くの公園がつくられたのです。それと同時に貴族文化の中で形成されてきた屋外で食事をする行事が、形を変えつつ大衆に広がりました。便利さと引き換えに失われる自分たちらしい生き方を取り戻そうとして、市民がピクニックをする姿が記録に残っています。今では、見れば使いたくなるピクニックグッズがたくさん出回っています。そのデザインにこだわるのも自分らしいライフスタイルを見つけるきっかけになるかもしれません。大切な人とピクニックに出かけてみませんか。突然の雨に見舞われることもあるけれど、ピクニックにハプニングはつきもの。その状況を楽しみながら工夫することもまた、創造力を発揮する最高のチャンスなのです。私が編集をしているウェブマガジン「OSOTO」では、ピクニックの他にも、おそとを使いこなす楽しみを紹介しています。参考にしながら創造の翼を広げてもらえれば幸いです。

忽那裕樹（くつなひろき）
1966年大阪府生まれ。E-DESIGN 代表。庭園をはじめ公園や広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院などのランドスケープのデザインとプログラムを国内外で展開。また、パークマネージメント、タウンマネージメントを通して、地域の改善や魅力向上に様々な立場で関わっている。enocoのプラットフォーム形成支援事業を手掛けるとともに、民主導の光と水のまちづくり推進組織「水都大阪パートナーズ」のプロデューサーとして数々の事業の企画・運営を推進中。

次回リレーコラム担当は…
☞ **嘉名光市**さん（大阪市立大学大学院准教授）

JAPANGRAPH

今号のenocoニュースレターの撮影を手掛ける 森善之 さんが編集を務めるフォトマガジン。各号一つの都道府県を特集し、日本各地の文化や暮らしを紹介しています。と〜ってもものんびりした内容です。

工芸ニュース　総集編

昭和7年〜昭和49年（戦時中は休刊）に刊行された、国内外の工芸とデザイン関連の記事を集めた雑誌です。通算346号に及ぶバックナンバーの中から、今なお価値のある記事を選り抜いた総集編です。

月刊ビル

1950年代〜70年代のビルをこよなく愛するビル好き集団 "BMC" による超不定期刊行物。ど渋なレトロビルにセピア色の喫茶店、ポップなコンテンツをディープに紹介しています。

ペナント・ジャパン

観光ペナントだけで作り上げたまさかの一冊！オーバー40の方ならグッとくるはず？！

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店「ON THE BOOKS」米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から（店長の）今の気分をあらわす4冊をご紹介します。

ON THE BOOKS　営業時間：11:00ー20:00（月曜日定休）
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中　**www.on-the-books.info**

みんなのえのこじま vol.02

日根野太之さん

フォトグラファー/淡路島アートセンタースタッフ
awajishima-art-center.jp

enocoと関わりの深いクリエイターに、活動内容と江之子島周辺のお気に入りスポットをシェアしてもらうショートインタビュー。第2回は、淡路島に引っ越したばかりにもかかわらず、かなりの頻度でenocoに出没している日根野太之さん。江之子島、最近どんな感じ？

ー簡単に自己紹介をお願いします。

ずっと神戸を拠点にフォトグラファーとして活動していたのですが、徐々にアートイベントの運営やまちづくりにも興味が出てきて、ご縁あってこのたび淡路島アートセンターでスタッフとして働き始めました。

ー淡路島在住でいらっしゃる割に、なかなかの頻度でenocoでお会いしている気がしますが！

（enoco2階に事務局が入っていた）「おおさかカンヴァス」で以前スタッフとして働いていて、そのときの仕事仲間が今もenocoのシェアオフィスに事務所を構えているので、時間があれば寄ります。仕事のことやプライベートのことなどいろいろ相談したり、ヒントをもらったりしています。そのほかにも最近では、enocoスタッフと一緒にカズーバンドを組んで、練習に励んだりもしました。人が面白いというか、ここを拠点としていろんな方面につながっていくのが楽しいです。

ーおすすめスポットをひとつ紹介していただけますか？

このあたりではランチ研究をかなりやったのでお店情報に関しては、実はかなり自信があります。一つだけとなるとかなり悩みますが「多ぬ喜」はおすすめです！居酒屋さんなんですが、お昼の定食もすごく美味しくて、かやくごはんおかわり自由。みんなおかわりしすぎて売り切れる事があるので、行くならぜひ開店直後に！

家庭料理の店　多ぬ喜
〒550-0006 大阪市西区江之子島1-6-8
シャンピア阿波座1階
06-6445-7767
日・祝日休
営業時間：11:30~14:00 / 17:00~22:00

エノケンのひとりごと
僕な、おじいさんに見えてると思うけど、実はこう見えて子犬やねん。